

～ 昨日の風 明日の風 ～  
**経営コンサルタント  
 独白録**

【第79回】 自責と他責(永遠のテーマ)



戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、㈱経営改善支援センター(福岡市、URL <http://sien.co.jp/>) 代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家。全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

ある日、若者たちが給料が安いと会議の最中に言い出しました。給料が安いので働く気がしない、と言うのです。地域特性や業種特性を考えれば標準的な給与体系の中にはそうした不満もあるとは思いますが、ネット上の様々な情報を得ている若者たちからすると、つい単純に文句を言いたくなるようです。

最後の方で、コメントを求められた私はこんな話をしました。

「給料が安いと言うけれど、どこと比べて安いのか?」「全国平均よりずいぶん低いと思います」「平均とは、高いところと低いところを全部合わせてその真ん中のラインを出すことだ。この地域は全国でもGDPが低い地域なので、全般的に金額が低い。それはベテランでも若手でも変わらない。もし高い給料が欲しいのなら、大都会に出ていくことだ。東京に行けば最低賃金ですら1000円を超えている。高い給料がもらえるよ。どうだ東京で働くかい?」

「いや、東京は無理です」「じゃあ給料の文句は言えないね」「しかし近所でも僕らより高い給料を払っている会社があります!」「それなら、その会社に移ればいいじゃないか。会社にぐだぐだと文句を言うよりも高い給料を払ってくれるところに転職すれば良いと言うだけの話だね」

「……………」

### きつい仕事は嫌い?

その後こんな話が続きます。

「もっと良い給料が欲しいなら、製造系の会社に変えることだ。サービス型の企業より製造型の企業は2割近く高い給料がもらえるよ。工場で働けばもっと給料はもらえる。どうだい?」「工場は汚れるから嫌です」「もっと汚れることのある建設業に行くと今の給料の倍は楽にももらえるよ。建設会社で働けば給料の文句は減るけど?」「いやあ、土方なんてできないですよ」「あらら、土方なんて言ったら駄目でしょう。私は今の仕事をする前に土方を20年間やっていたので馬鹿にされたような気になるよ(笑)」

### 高い給料の理由

そんなやりとりの後に、こんな話を丁寧な言葉

でしました。

「高い給料が欲しければ、高い給料に見合うだけの人間になることが大切だ。自分が努力もせず給料だけのことを言う人間もたくさんいるけれども、今の君たちはまさにそれではないか。高い給料をもらっている人たちは、それなりに努力をしている。東京で働いている人たちは凄まじい競争の中で職を失わないために日々勉強し、日々励んでいる。例えばホテルのフロントなど英語や中国語が喋れなければ務まらない。大都会のコーヒー屋ですら、英語ができない店員は給料が安い。都会は才能のある人たちの集まりだ。才能のある人たちだから給料が高い。同時に物価も高い。世の中とはそうした仕組みで出来上がっている。単純にネット記事を見て自分の給料と比較して文句を言うような連中は、おとなしく田舎で文句を言い続けていけば良い。社長に、こんな給料では申し訳ないと思わせる人間にならないと給料は上がらない。この人間に辞められては困るという人間にならないと給料は上がらない。何もせずに給料を上げてくれと言うのなら、そのまま朽ち果てていく以外にないのだが……」

「私の支援先の若者たちの目標は、年収1000万円プレイヤーになることだ。彼らは日々努力し、勉強をしているよ。いずれは独立してやろうかと思っている若者もいるよ。給料に文句もあるだろうが、給料の安いことを自分たちの責任すなわち【自責】と捉え【他責】にはしていない。爺イの話で面白くないだろうけれども、一度その若者たちに会ってみるかい?いつでも紹介するけど…」

### 【自責】と【他責】

自責と他責は人生の永遠のテーマです。ものを考える位置を変えただけで、がらりと周りの風景は変わります。

組織の中でそれを教えることはなかなか難しいことです。なぜなら同じ枠組みにいる人間は、様々な事情を知っているために問答無用の「直球」を投げられないのです。それはまた我々のようなコンサルタントの存在理由でもあります。一度組織の人達に「プロの豪速球」を見せてはいかがですか。